

## 6月21日 年間第12主日 マタイ10章26～33節 恐れなさい、しかし恐れるな

今週もイエスが弟子たちを派遣するにあたって語られた言葉です。宣教の際にはさまざまな困難があるかもしれません。ときには人々に受け入れられず、追い出される恐れがあるかもしれません。それでイエスは弟子たちに励ましの意味を込めて語られます。

人々を恐れる、とは迫害を前提としています。この時点ではイエスに対して反感を持っている人々、とくにユダヤ人の指導者たちもいたことでしょうが、まだ迫害の時代とは言えません。しかし、弟子たちだけで宣教に行くのは勇気がいることであり、不安も感じていたことでしょう。それが人々に対する恐れにつながっていたと思われます。また、福音書が編集された時点での迫害の状況が反映されているのかもしれません。

なぜわたしたちは人を恐れるのでしょうか。暴力や迫害もそうですが、弱みを握られるということもあるのではないのでしょうか。だれでも一つや二つ、人に知られたくない秘密があります。「あの人、いかついと思っていたらこんなかわいいものを集めていたの？」というような、人に知られると恥ずかしい程度ならまだいいかもしれませんが、地位や役職を失ってしまう秘密もあります。それを公にするぞ、と脅迫されることもあるかもしれません。そのように、敵や反感を持つ人には弱みを握られたらえらいことになります。

それに対して味方には弱点を見せても大丈夫ですね。ワールドカップが始まりましたが、サッカーでも野球でも、監督は選手のスキルをよく知らないと試合をうまく運ぶはできません。そして、弱点も知っているからこそ、どこでどのような場面でその選手を使うかを考えます。それは、その選手が弱点を持っていることを責めるためではなく、どうすればそれを克服できるか、それをカバーできるかを常に考えます。その選手を守るためには弱点を知っている必要があります。そうして監督は一人一人の個性を生かしながらチームを勝利に導くことができるのです。

同じように、神もわたしたちの弱さや秘密をすべてご存じです。イエスが言われるように「髪の毛も一本残らず数えられている」のですから、秘密にする以前に全部ばれてしまっています。いわば「神に弱みを握られてしまっている」状態ですね。しかしそれは、わたしたちを責めるためではなく、守り導くためです。すでに知られているのですから、恐れることはないのです。

「魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい」という言葉はたしかに恐ろしいですが、「魂を殺すことのできない者」に対しての表現です。迫害する者よりも神ははるかに力強い方、最高の守り主であることを表しています。「だから、恐れるな」ということなのです。それは大いなる励ましの言葉ではないのでしょうか。

わたしたちはこの世においてさまざまな恐れを抱えています。恐れは心の乱れや差別を生んでしまいがちですが、逆に神への信頼を回復する機会でもあるのです。(柳本神父)